

令和 5 年度

附属図書館活動報告書

東京大学附属図書館

目次

1. 令和5年度の特記事項	1
1.1 附属図書館の蔵書が1,000万冊達成.....	1
1.2 オープンアクセス推進活動	1
1.3 附属図書館特別展示の開催	1
1.4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策への対応	2
1.5 「新駒場図書館(II期棟)計画」の検討(駒場図書館)	2
1.6 ライブラリー・スキーマの検討	2
1.7 オンサイト自家消費型太陽光発電設備の整備	2
2. 研究成果の発信、資料の電子化	4
2.1 東京大学学術機関リポジトリ(UTokyo Repository)	4
2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業	4
2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業.....	5
3. 利用者サービス、ガイダンス、広報	6
3.1 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み.....	6
3.2 障害のある利用者(本学構成員)への資料電子化サービス	7
3.3 図書館ガイダンス、講習会等	7
3.4 各館の広報	11
3.5 キャンパス一般公開	12
3.6 展示およびイベント企画	13
4. 資料の収集	19
4.1 学習用図書の整備	19
4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用	19
4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備.....	19
4.4 大型コレクション.....	19
5. 資料の管理	20
5.1 目録データの遡及入力事業	20

5.2	自動書庫.....	20
5.3	図書資産の実査.....	20
5.4	アジア研究図書館の整備.....	21
6.	業務管理.....	22
6.1	職員研修.....	22
6.2	学生協働.....	22
6.3	社会連携・地域貢献.....	23
6.4	教員著作物可視化事業との連携.....	25
6.5	学内他部署との連携.....	25
6.6	規則改正等.....	26
7.	附属図書館会議.....	27
8.	全図書館・室統計.....	28
8.1	職員数、蔵書数、利用件数.....	28
8.2	経年変化.....	29
9.	参考資料.....	31

1. 令和 5 年度の特記事項

1.1 附属図書館の蔵書が 1,000 万冊達成

東京大学附属図書館の蔵書が、令和 5 年度に 1,000 万冊に達した。1,000 万冊の蔵書を持つ大学図書館は、国内初となる。令和 6 年度にはこれを記念した広報活動を行う予定である。

なお、この蔵書数は附属図書館 30 館の蔵書の合計である。また、図書と製本雑誌の合計であり、未製本雑誌や電子リソース（電子ジャーナル、電子ブック、データベース等）は含まない。

1.2 オープンアクセス推進活動

令和 5 年 1 月から開始した学術出版社 3 社（Oxford University Press, Springer Nature, Wiley）との転換契約では、令和 5 年 12 月までの 1 年間に、同 3 社の転換契約を利用したオープンアクセス（OA）論文数は 640 本となり、前年比で約 5 倍となった。うち、助教、研究員、学生等の OA 論文数が全体の約 37%を占め、若手研究者の OA 論文出版への一定の支援につながっていることが確認できた。

令和 5 年 7 月に研究大学コンソーシアム（RUC）内に、「学術情報流通の在り方に関する連絡会」（以下、RUC 連絡会）が設置され、東京大学も企画メンバーとして参画し、転換契約に関する報告会および OA や学術情報流通に関するセミナーを実施した。RUC 連絡会では、OA に関する知識や論点、学術情報流通の最新動向に関するセミナーを引き続き開催することになっており、学外と連携した活動も行っている。

令和 5 年 4 月、図書行政商議会の下に設置した「全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備検討ワーキンググループ」に於いて、OA に関する動向等の確認および転換契約に係る APC（OA 論文掲載料）と全学共通経費（第 5 期）との関係性についても検討を行った。

1.3 附属図書館特別展示の開催

総合図書館展示スペースおよびオープンエリアを会場に、令和 5 年度附属図書館特別展示「図書館に眠る震災の記憶」¹を企画実施した（会期：令和 5 年 8 月 25 日～10 月 25 日）。本展には学外から 653 名の来場者があった（学内閲覧者数はカウントせず）。

今回の特別展示では、昨年度に続き国立国会図書館が運用するジャパンサーチのギャラリー機能を使った電子展示を行い²、期間中 1,712 回のアクセスがあった。また、本部広報課との連携により東京大学ウェブサイト「「関東大震災 100 年」関連イベント等のご案内」のページを設け³、学内の部局等が開催する関連イベント等の情報を発信した（9に参考資料として特別展示のチラシを掲載）。

¹ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20230825>

² <https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-shinsai2023>

³ https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z1901_00012.html

1.4 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策への対応

令和5年5月8日(月)に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、サービスや施設利用における制限を解除した。

総合図書館では、ライブラリープラザやラウンジでの会話を解禁し、プロジェクトボックスの利用人数制限も令和6年1月から解除した。8月からは一般学外者の見学を再開した(6.3(3)参照)。

駒場図書館でも、残っていた制限を5月中にすべて解除した。対面での授業が増え、登校する学生が増える中、まず5月8日に Sky Lounge の食事可能な席数を回復させた。その後、2~4階閲覧席の間引き箇所を元通りにし、同時に上限6名としていたグループ学習室の利用も従来の定員12名に戻した。

柏図書館では、令和5年度当初は友の会会員の利用制限(平日17時までに限定)が残っていたが、6月6日から通常に戻し、遵守事項の確認等を毎回行っていた学外者の入館手続も通常に戻した。また、6月28日には間引きしていた閲覧席も通常に復帰した。

1.5 「新駒場図書館 (II 期棟) 計画」の検討 (駒場図書館)

令和5年6月30日にPFI事業「東京大学(駒場I)図書館(II期)整備等事業」における実施方針および要求水準書(案)が公表された。その後は年度内の事業契約締結を目指し、要求水準書の検討などを行った。9月15日に入札公告が行われたが業者からの参加表明は無かったため、施設部による業者へのヒアリングや文部科学省への説明などが行われた。

これを受けて教養学部および駒場図書館で検討を行い、書架スペースの確保や前期課程教育で必要不可欠なラーニングコモンズの新設は、今後のII期棟計画でも譲れないラインであるということを確認した。次年度にかけて要求水準書の再検討を行いつつ、事業者選定手続き開始のタイミングを調整する。

1.6 ライブラリー・スキーマの検討

令和5年1月付で科学技術・学術審議会 情報委員会 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会から「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)」⁴が公表された。これを受け、審議のまとめで言及されている「ライブラリー・スキーマ」について検討チームを立ち上げ、まずは総合図書館について検討を開始した。

1.7 オンサイト自家消費型太陽光発電設備の整備

東京大学では、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動計画として「UTokyo Climate Action」⁵を策定し、2030、2040、2050年までの削減目標を設定している。目標達成の対策の一つとして建物屋上利用可能スペースへのオンサイト自家消費型太陽光発電設備の整備計画が進められている。

⁴ https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/004/mext_00001.html

⁵ <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/gx/about.html>

総合図書館では令和 5 年 10 月に設備設置に伴う館内工事、11～12 月に設置工事を行い、12 月より稼働を開始している。

駒場図書館でも令和 5 年 9 月上旬に設備設置に伴う館内工事、11 月中旬に設置工事を行い、12 月 7 日より稼働を開始している。

また、当整備事業のⅡ期計画(令和 6 年度工事、令和 7 年度～発電開始予定)の整備範囲が柏地区キャンパスに広げられたことから、柏図書館の自動書庫棟の屋上にも設備を整備することとなった。

2. 研究成果の発信、資料の電子化

2.1 東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)⁶

令和 5 年度は全体で 2,386 件のコンテンツ追加登録を行い、これにより総コンテンツ数が 53,916 件になった。登録コンテンツの内訳は、紀要・博士論文が中心である。紀要は 121 誌からなる 31,674 件の論文を公開しており、本学の研究成果の発信に貢献している。主として機関リポジトリを公開プラットフォームとして利用している紀要の掲載論文および本文または要約を公開している博士論文に対し DOI 付与を行っている。

2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

平成 29 年度からスタートした東京大学デジタルアーカイブズ構築事業⁷は、令和 5 年度も附属図書館、文書館、総合研究博物館、情報基盤センターの各長などからなる「東京大学学術資産等アーカイブズ委員会」の下で実施され、公募により選定された 12 事業の取り組みが着実に進められた。

本事業では、デジタルアーカイブの公開基盤の運用も行っている。「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」(以下、ポータルという)⁸は、学内の様々な部局がデジタル化し公開しているコレクションを横断的に検索できるウェブサイトとして令和元年 6 月に公開したが、令和 5 年度に新たに 6 つのコレクションを追加し、検索可能件数は合計 206,515 件となった。また、「東京大学学術資産等アーカイブズリンク集」(以下、リンク集という)⁹では、学内の様々な部局が作成している学術資産のウェブサイトを一覧形式で紹介しており、令和 5 年度には新たに 148 件のウェブサイトを追加し、合計 431 件のウェブサイトを一覧できるようになった。なお、これまではポータル、リンク集、および部局・研究所等がデジタル化した画像を公開するためのデジタルアーカイブシステムを個別のシステムとして運用してきたが、機能統合すべくシステム改修を進めている。¹⁰

デジタルアーカイブの普及活動としては、令和 5 年 12 月 13 日(水)に学術資産アーカイブ化推進室主催のオンラインセミナー「デジタルアーカイブズ構築事業の成果紹介とこれからの活用を考える」¹¹を開催した。2022 年度までに行われた事業の紹介と、デジタルコンテンツを用いた新たな研究活動の実践をテーマとし、学内外から 245 名の参加者があった。

本事業の広報活動においては、東京大学『学内広報』に本事業の関連コラム「デジタル万華鏡 東大の多様な『学術資産』を再確認しよう」を連載するとともに、ジャパンサーチのギャラリー機能を活用し、コラムで紹介した資料の電子展示を行っている。¹²また、令和 5 年 11 月 18 日(土)に開催された国際シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズと研究基盤 欧州と日本の最新トレンド」¹³にポスター出展し、本事業について紹介した。

⁶ <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp>

⁷ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top>

⁸ <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

⁹ <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/database/list>

¹⁰ 令和 6 年 5 月 29 日に新システムを公開。 <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

¹¹ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20231213>

¹² <https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-digitalkaleidoscope>

¹³ <https://dhsympo2023.dhii.jp/>

2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業

本学では、国文学研究資料館が実施する標記事業の拠点大学として、継続的に古典籍の電子化を行っている。令和5年度は、総合図書館が所蔵する「南葵文庫」や「鶚軒文庫」の資料など合計406点の電子化を実施したほか、教養学部国文・漢文学部会所蔵の226点、医学図書館所蔵の64点、理学図書館所蔵の3点、文学部の印哲研究室、印仏研究室、国文学研究室所蔵の合計117点についても電子化を行った。また、令和4年度までに電子化を行った本学所蔵の古典籍について、順次、国文学研究資料館が構築・運用する「国書データベース」から公開された。¹⁴

なお、平成26年度から実施されていた当計画は、当初から目標に掲げていた30万点の画像集積が達成できる見込みとなり予定どおり令和5年度で終了となること、令和6年度からは後継事業として「データ駆動による課題解決型人文学の創成」プロジェクト¹⁵が開始されることとなった。当館は後継事業においても所蔵古典籍のデジタル化を中心に協力していく予定である。

¹⁴ <https://kokusho.nijl.ac.jp/>

¹⁵ <https://lab.nijl.ac.jp/humanitiesthroughddps/>

3. 利用者サービス、ガイダンス、広報

3.1 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み

(1) 総合図書館

「来館困難者に対する図書館資料等郵送サービス」の恒常化

コロナ禍における暫定的なサービスであった「図書館資料等郵送サービス」を、令和 5 年 5 月 10 日(水)から、恒常的なサービスとして運用開始した。当初、「学位論文執筆のために総合図書館の資料を必要とする本学の学生」を対象として開始した本サービスであったが、令和 2 年 6 月から、目的を問わず、来館が困難な本学在籍者に対象を拡大し、現在に至る。なお、サービス恒常化に際し、大学負担としていた送料は受益者負担とすることにした。

本館・別館連絡通路に車椅子専用階段昇降機を設置

本館と別館ライブラリープラザをつなぐ通路に、車椅子利用者のための階段昇降機を設置した。これまで車椅子利用者が本館から別館に向かうには、一度屋外に出て図書館前広場のエレベータを使う必要があったが、今後は階段昇降機を活用することで両方の間を直接行き来できるようになり、利便性が高められた。

防災訓練の実施

年一回実施される全学の防災訓練とは別に、避難路の確認、避難用具の使用実習等を閉館日に定期的に実施した。また、通常開館日にも 1 回、避難誘導訓練を行った。今後も定期的に訓練を実施し、職員と利用者の防災意識を醸成する。

(2) 駒場図書館

館内無線 LAN の増強

令和 4 年度FSI債により総合文化研究科が管理する館内無線LANのアクセスポイントを増設したところだが、更なる改善のため、全学的な無線LAN環境整備施策の一環として現地調査が行われた。

複写サービスの改善

ホームライブラリが駒場図書館の名誉教授に対するサービスとして、従来来館が必要だった他館資料複写申込のオンライン申請を令和 5 年 7 月 14 日(金)から開始した。

書架案内の国際化対応

参考図書コーナー(洋書)の別置資料を案内するための代本板約 100 本を和英併記に更新した。

マイクロ資料へのアクセス向上

当館所蔵マイクロ資料のうち、目録データが未登録だったマイクロフィッシュ全点およびマイクロフィルムの一部について遡及入力を完了し、東京大学 OPAC で検索可能となった。残る未登録マイクロフィルムについては駒場図書館Webサイトにタイトルリストを掲載することにより、全タイトルをオンラインで確認できるよう改善し、所蔵情報の視認性が向上した。

(3) 柏図書館

スピーキングブースの設置等

オンラインでの学習・研究活動や発話を伴う学習の可能な個室「スピーキングブース」1台を、利用者が減少した AV コーナーエリアに設置した。同エリアには、西川治名誉教授から寄贈の地図資料を収める「地図キャビネット」2台も設置した(いずれも令和6年3月)。

国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービス

視覚障害等のある利用者に、国立国会図書館の視覚障害者等用データが提供できる「視覚障害者等用データ送信サービス」の送信承認館となった。併せて、同館の学術文献録音テープ等の貸出承認館ともなった(いずれも9月)。

メディアホールの機器整備

研究会・セミナー等のオンライン開催の普及により要望の多かった、メディアホール内の会場音声を取り込むための機器・配線の整備を5月に実施した。

3.2 障害のある利用者(本学構成員)への資料電子化サービス

総合図書館、駒場図書館、柏図書館において、バリアフリー支援室の協力の下、視覚障害等により紙資料の利用が困難な本学構成員を対象とした資料電子化サービスを実施している。利用者は所属キャンパスの拠点図書館に電子化を依頼することになっており、令和5年度の電子化実施件数は総合図書館が43件(うちPDF形式43件、テキストデータ形式0件)、駒場図書館が4件(うちPDF形式0件、テキストデータ形式4件)であった(柏図書館への依頼は無し)。

また、大学院生の高い専門性を学内業務に活かす「オンキャンパスジョブ」の制度を活用した修学支援事業に「障害のある学生への就学支援業務及び障害のある教職員への就業支援業務」として応募し、採択を受けた。当事業は駒場図書館を主担当として実施し、バリアフリー支援に関わる教員と電子化対象資料について協議を行い、内容が学術的に高度な資料2点のテキストデータ作成を行った。

さらに総合図書館では、これまで当サービスにおいて作成してきた電子化済みファイルを国立国会図書館による視覚障害者等用データ送信サービスに提供し、2023年度末時点で約300件の電子ファイルを「みなサーチ」経由で利用できるようにした。

3.3 図書館ガイダンス、講習会等

(1) 総合図書館

進・入学者に向け、春・秋にセルフツアーを開催したほか、各種授業での館内ツアー・ガイダンスを実施した。また、令和5年9月に、短時間で図書館の利用について学べるクイックガイド(動画)を公開した。

期間	内容	参加者数 または表示回数
令和 5 年 3 月 24 日(金)～ 5 月 12 日(金)	「総合図書館 セルフツアー」(日本語・英語)	173 名
6 月 20 日(火)	全学体験ゼミナール 総合図書館ツアー」	22 名
6 月 22 日(木)	「こまとちゃんゼミナール 総合図書館ツアー」	31 名
9 月 8 日(金)～ 令和 6 年 3 月 31 日(日)	クイックガイド(動画)	123 回
9 月 29 日(金)～ 10 月 25 日(水)	「総合図書館 セルフツアー」(日本語・英語)	166 名
10 月 30 日(月)	「社会心理学調査実習 II 総合図書館ツアー」	25 名
12 月 1 日(金)	「大学図書館サービス論 総合図書館ツアー」	8 名
令和 6 年 1 月 18 日(木)	「こまとちゃんゼミナール 総合図書館ツアー」	22 名

(2) 駒場図書館

いつでもどこでも学生が必要な時に視聴できる各種動画(公式 YouTube チャンネル「こまとちゃんねる」¹⁶で公開)をはじめ、オンラインコンテンツ・館内イベント・掲示等の充実を図った(下表掲載)。

例年実施している初年次ゼミナール(S セメスター)との連携に加え、ALESS/ALESA との連携を模索し、10 月から駒場アカデミック・ライティング・センター(以下、CAWK)と主としてバーチャルな連携を開始した。その一環で CAWK 教員へのインタビューをもとにパスファインダー「文献収集スキルを UP させる Tips～教養学部生にお薦めのデータベース」¹⁷を作成し駒場図書館・CAWK 双方の Web サイトに掲載したほか、ALESS/ALESA 授業内での配布を働きかけ、CAWK 内でも活用されている。

新入生や新任教職員に役立つ情報をまとめたウェブページ「図書館活用ガイド」(令和 3 年度新設)¹⁸で



¹⁶ https://www.youtube.com/@utokyo_komatochan

¹⁷ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/campus/guide#TISS>

¹⁸ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/campus/guide>

は、図書館活用法・利用マナーに関する各種リーフレットや、レポート・論文執筆に役立つ情報を提供しており、それらとリンクしたパンフレットコーナーを 1F に新設した（前頁の写真）。

学生自身がマップや掲示物をヒントにクイズを解きながら館内を巡る「セルフツアー」は、春・秋ともに日本語版・英語版を実施した。それに加えて、秋にはセルフツアーと同時にコンプライアンス教育の一環として著作権〇×クイズを初めて実施した。また、以下 2 件の授業支援を実施した。

① 教養学部必修授業「初年次ゼミナール文科（総合）」・「初年次ゼミナール理科」

情報システム部情報基盤課学術情報チーム学術情報リテラシー担当と連携して情報検索に関するテキスト教材を制作し、動画「情報検索 Web セミナー」等を補助教材として提供した。また、「初年次ゼミナール文科（総合）」では、第 2 回の授業として「文献検索ワークショップ」（オンデマンド動画）を実施した（令和 4 年度はリアルタイムオンライン授業を実施）。

② 全学自由研究ゼミナール「こまとちゃんゼミナール」

平成 29 年度から教養教育高度化機構社会連携部門により開講されてきた全学自由研究ゼミナール「図書館の学び・活用・提案」は、令和 3 年度より「こまとちゃんゼミナール～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル」と名称を変えて開講されている。駒場図書館は、情報検索実習、レファレンスサービスに関する講義、駒場図書館バックヤードツアー、展示コーナーでの成果物展示など年間を通して授業支援を行った。

期間	内容	参加者数 または視聴回数
令和 5 年 3 月 28 日（火）～ 6 月 30 日（金）	駒場図書館セルフツアー （日本語・英語／紙版・スマホ版）	184 名
3 月 28 日（火）～ 6 月 30 日（金）	図書展示「みにつけよう！アカデミック・スキルズ」	151 名 貸出 358 回
3 月	新入生学部ガイダンス（オンデマンド動画提供）	—
3 月 31 日（金）	新入大学院留学生生活オリエンテーション （Zoom／日本語／25 分）	45 名
4 月 3 日（月）	留学生春季オリエンテーションキャンパスツアー	76 名
4 月 4 日（火）	PEAK 後期課程進学予定者向けガイダンス （Zoom／10 分）	34 名
S semester 第 2 回 の授業	授業支援：初年次ゼミナール文科（総合）必修「文献 検索ワークショップ」 （オンライン・オンデマンド）	1,383 名
9 月 20 日（水）～ 10 月 31 日（火）	駒場図書館セルフツアー （日本語・英語／紙版・スマホ版）	134 名
9 月 20 日（水）～ 10 月 31 日（火）	著作権〇×クイズ （日本語・英語）	44 名
9 月 21 日（木）、	留学生秋季オリエンテーションキャンパスツアー	174 名

10月2日(月)		
9月29日(金)	新入大学院留学生生活オリエンテーション (Zoom/日本語+英語/30分)	34名
9月29日(金)	教養学部進学内定者ガイダンス(資料提供)	—
通年	KOMABA LIBRARY TOUR 施設編/資料編 (YouTube/日本語・英語/学内者向け利用案内)	772回
通年	自動貸出機の使い方 (YouTube/日本語・英語)	177回
通年	情報検索 Web セミナー「文献検索のコツ」Part1-6 (YouTube/日本語・英語) 2023年度新規公開: Part4-2 CiNii Research で日本語論文を探すには (日3/20、英9/1公開) Part6 新聞記事を探すには(日10/17、英2024/3/19 公開) Part6-2 pressreader で新聞記事を探すには(日 10/17公開)	2,449回
通年	3分 de こまとツアー (YouTube/日本語/学外者向け沿革、施設、 コレクション紹介)	214回
通年	授業支援:全学自由研究ゼミナール 「こまとちゃんゼミナール」 Sセメスター・Aセメスター各7回 (初回 Zoom、以降対面)	404名

(3) 柏図書館

新入生ガイダンス(春入学4月、秋入学10月)を、ZoomならびにZoomと対面のハイブリッド形式で実施した。留学生ガイダンスは、春・秋入学向け共にZoomで実施した。また、データベース講習会を、適宜、学術情報リテラシー担当と連携しながらZoomで実施した。

期間	内容	参加者数
春季・秋季	新領域創成科学研究科 新入生ガイダンス 計7回	248名(対面)
秋季	新領域創成科学研究科 留学生ガイダンス 計2回	オンライン
春季・秋季	柏図書館セルフツアー 計2回	25名
7月	データベース講習会ほか 計2回	28名

また、英語論文セミナースライド「『母語でない英語』で学術論文を書くということ」を11月17日より柏図書館入口のモニターで上映した。学術情報リテラシーに関する有益な知識や情報を、学生をはじめとする柏キャンパスの構成員に広く伝える試みである。

3.4 各館の広報

附属図書館広報誌『図書館の窓』Vol.62 No.1¹⁹を発行した。内容は図書館の利用ガイド、電子リソース・文献管理ツールの活用方法、各図書館の施設・設備の紹介等である。印刷版を主に令和6年度4月入学者・進学者へ配布したほか、PDF版を附属図書館ウェブサイトに掲載した。

(1) 総合図書館

平成31年3月13日(水)に開設した総合図書館Xアカウントからの発信を続けており、展示図書やデジタル化資料の紹介、イベントの案内、台風や積雪による開館時間変更の案内等に活用した。

2013年に「新図書館計画」の広報のために開設したYouTubeチャンネルを整備しなおし、総合図書館公式YouTubeとした。

総務部広報課の全面的な協力により、総合図書館の建物、意匠、文物、貴重書等を映像と写真で撮影した。映像は総合図書館のプロモーションビデオとしてYouTubeで令和6年4月に公開した。²⁰ 写真は附属図書館および本部等が発行する印刷物やSNS等での広報に活用する予定である。

(2) 駒場図書館

駒場図書館では、初めて東京大学に所属する利用者が多いという特徴を踏まえ駒場図書館ウェブサイト内「図書館活用ガイド」²¹に新入生や新任教職員に役立つ情報をまとめている。

平成24年3月21日(水)に開設した駒場図書館公式Xアカウントは令和5年11月21日にフォロワー1万人を突破した。オンライン講習会や閉館日等に関するお知らせのほか、特に新しい利用者が増える4月、10月頃には図書館活用法やマナーに関する投稿を重点的に行っているが、令和5年度は初めての試みとして、10月入学の留学生向けに英語での投稿を行った。

なお、駒場図書館開館20周年(令和4年10月)を機に新設した常設展では、駒場図書館の活動やコレクションを紹介しており、時折内容の更新を行っている(他の展示期間中は縮小または休止)。令和5年度は、11月から荻生徂徠コレクションの資料紹介を2点追加し、令和6年3月に新たに貴重書に指定した『Von West nach Ost(『東漸新誌』)』に関する紹介パネルを充実させた。

¹⁹ 日本語版 https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2024-03/kanpo-62-1_ja.pdf

英語版 https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2024-03/kanpo-62-1_en.pdf

²⁰ <https://www.youtube.com/watch?v=gAxOytxwTcg>

²¹ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/campus/guide>

(3) 柏図書館

柏図書館では、メールニュース「柏図書館からのお知らせ」の日本語版・英語版の両方を毎月（計12回）発行したほか、イベントや講習会の開催にあわせて臨時便を9回発行し、柏キャンパス内の教職員・学生向けに利用案内やイベントのお知らせを行った。

また、柏キャンパスの学術成果等の公開を促進するため、メディアホール等の柏図書館施設で行われる研究会・セミナー等の主催者に、UTokyo Repositoryのチラシを配付して発表資料等の登録・公開が可能であることを10月から紹介している。

3.5 キャンパス一般公開

(1) 総合図書館

オープンキャンパスは令和2年度からオンライン形式となり、令和5年度は8月2日（水）～3日（木）に開催された。総合図書館はオンライン館内見学会を企画して参加し、展示・イベントワーキンググループで作成した総合図書館の紹介スライドショー『ようこそ総合図書館へ・2023』をYouTube上で公開した。

ホームカミングデイは対面・オンデマンド等を併用したハイブリッド形式で実施された。総合図書館では10月21日（土）に事前予約制の館内見学ツアーを実施し、118名の参加者を得た。見学ツアーに参加できなかった来場者には、館内で開催中の特別展示（1.3参照）を案内した。また、29日（日）までの間、スライドショー『総合図書館バーチャルツアー・2023』をオンデマンドでの動画配信の形で公開した。

(2) 駒場図書館

オンライン形式で実施されたホームカミングデイでは、駒場図書館の沿革・施設・コレクションを紹介する動画『3分deこまとツアー』を公開した。

(3) 柏図書館

柏キャンパス一般公開は、10月27日（金）～28日（土）に4年ぶりに実地開催された。柏図書館で実施したイベントは以下のとおり。

期間	内容
令和5年 10月27日（金）～ 28日（土） 柏図書館テーマ 「知の交流を支える 図書館」	柏図書館ガイド付きツアー 計6回開催、参加者43名
	柏図書館スタンプラリー 館内紹介を兼ねた企画で、達成者730名にグッズ（クリアファイル）配布
	WINGS-PES Book 2nd Book Exhibition “THE OCEAN” 「プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム（WINGS-PES）」および「グリーントランスフォーメーション（GX）を先導する高度人材育成（SPRING GX）」の大学院生と、プログラム担当教員による海をテーマにしたおすすめ図書の紹介展示

	想像×科学×倫理ワークショップ「東大柏の葉 100 人論文」 新領域創成科学研究科の学生実行委員による研究紹介ポスター の展示と対話（柏図書館協力）
--	--

3.6 展示およびイベント企画

(1) 総合図書館

展示

附属図書館特別展示については 1.2 を参照。そのほかの展示については、昨年度に引き続き、3 階ホールでの展示を中心に実施した。

「Shelf of Wonder」は、学内の部局や学外の研究機関と連携し、その研究成果等を発信・紹介するシリーズ展示である。令和 5 年度は男女共同参画室（現・ジェンダー・エクイティ推進オフィス）からの希望を受けて実施したほか、特別展と連動して地震研究所、アダム・スミス生誕 300 年にちなみ経済学部・経済学研究科の協力・資料提供を受けて展示を実施した。

館内の研究部門や学内の部局にも展示場所を提供し、アジア研究図書館研究開発部門（RASARL）の展示「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展を展示スペースおよびオープンエリアで開催した。これに併せて記念セミナーも開催された。

また、令和 2 年度に開始した常設コーナー「UTokyo Faculty Works」（東京大学の教員著作を展示）、「Shelf of UTokyo Press」（東京大学出版会との共同展示）、「Shelf of UTokyo COOP」（東京大学生協同組合との共同展示）を引き続き設置した。

このほか、大閲覧室前の平机でも学生による選書の成果「東大生が選んだ本」や、「東京大学而立賞」、「EU フレンドシップウィーク」展示を行った。

期間	場所	内容
常設展示 令和 2 年 11 月 27 日（金）～	展示スペース	総合図書館の 130 年を振り返る 1 ～創立から震災復興まで
令和 5 年 2 月 17 日（金）～ 6 月 15 日（木）	3 階ホール	東大研究者の本棚 第 3 回 石原あえか教授図書展示 言葉の海を泳ぐ
3 月 15 日（水）～ 6 月 1 日（木）	3 階ホール	Shelf of Wonder 第 3 回 グリーントランスフォーメーション（GX）関連展示
5 月 26 日（金）～ 8 月 22 日（火）	展示スペース	田中芳男と牧野富太郎 一田中芳男文庫・植物資料展一
6 月 2 日（金）～ 8 月 16 日（水）	3 階ホール	Shelf of Wonder 第 4 回 男女共同参画室
8 月 16 日（水）～ 10 月 25 日（水）	3 階ホール	Shelf of Wonder 第 5 回 地震研究所
11 月 1 日（水）～ 11 月 30 日（木）	展示スペース オープンエリア	「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展

11月8日(水)～ 令和6年 2月6日(火)	3階ホール	Shelf of Wonder 第6回 経済学部・経済学研究科 アダム・スミス生誕300年記念
12月22日(金)～ 令和6年 3月25日(月)	展示スペース	本のなかの Wonderful Dogs!
3月26日(火)～	展示スペース	げんじのてんじ - みんな源氏物語 -

講演会・セミナー等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントはオンライン形式で開催した。

期間	内容	参加者数
令和5年 12月13日(月)	第7回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー 「アーカイブズ構築事業の成果紹介とこれからの活用を考える」(オンライン開催)	245名

(2) 駒場図書館

先述の3.4「各館の広報」でも報告のとおり、常設展示について一部展示替えを行った。

展示

期間	内容
令和5年 3月28日(火)～ 6月30日(金)	みにつけよう!アカデミックスキルズ(1階カウンター前) ※新入生歓迎企画「Lib ³ (リブキューブ)」の一環
4月4日(火)～ 4月25日(火)	#東大ばてゼミこと「ボーカロイド音楽論」ってなに?
5月9日(火)～ 5月23日(火)	進学選択応援コーナー(教養学部統合自然科学科)
5月23日(火)～ 7月11日(火)	UTokyo 男女+協働改革#WeChange 始動2022-2027 ※ポスター展示(1階 GENKI BOOKS 棚の間)
5月24日(水)～ 5月30日(火)	UTokyo Sustainable Network の活動紹介
5月31日(水)～ 6月14日(水)	理学部進学選択応援コーナー2023
6月16日(金)～ 6月30日(金)	「駒場生が東大のe-bookをレビューしてみた!」パネル展示 ※新入生歓迎企画「Lib ³ (リブキューブ)」の一環
7月3日(月)～ 7月12日(水)	Hong Kong Week 特別展示:香港国家安全維持法実施三周年 香港の変容
7月13日(木)～ 8月2日(水)	こまちゃんゼミナールSセメ ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の 情報検索・収集・発信スキル成果発表展示

9月15日(金)～ 9月29日(金)	#東大ばてゼミこと「ボーカロイド音楽論」ってなに?
10月2日(月)～ 10月23日(月)	クレ・カオル写真展「ウクライナの今」
11月1日(水)～ 11月22日(水)	UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)写真展
11月27日(月)～ 12月11日(月)	東京大学GX学生ネットワーク活動紹介
12月12日(火)～ 12月27日(水)	中国「白紙運動」一周年:忘れられない記憶
令和6年 1月11日(木)～ 2月1日(木)	こまとちゃんゼミナール Aセメ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の 情報検索・収集・発信スキル成果発表展示
2月19日(月)～ 3月11日(月)	Unissued Diplomas / 発行されなかった卒業証書
通年	常設展「こまとちゃんと知の遺産」 ※他の展示期間中は縮小または休止



イベント等

期間	内容
令和5年 3月28日(火)～ 6月30日(金)	新入生歓迎企画「Lib ³ (リブキューブ)」
5月26日(金)	駒場書籍部トークイベント「直木賞作家 小川哲さんに聞く駒場の日々と文学遍歴」を共催
9月1日(金)	東京大学ヒューマンティーズセンター (HMC)

	第 95 回オープンセミナー「荻生徂徠『官刻六論衍義叙』をめぐる」(講演:高山大毅准教授)を共催
10月21日(土)～ 10月29日(日)	オンデマンド配信『3分deこまとツアー』 (東京大学ホームカミングデー)
12月6日(水)	教養学部の活動「駒場の歴史・資料・研究」東京大学基金特別セミナーに参加(講演:石原あえか大学院総合文化研究科図書館長、石田淳駒場図書館長)

(3) 柏図書館

展示

期間	内容
令和4年10月～ 令和5年9月	第22回企画展示「国立情報学研究所 - 未来価値を創成する情報学研究 × 大学・研究機関を支える学術情報基盤」 (協力:同研究所) (令和4年度から継続)
令和4年10月～ 令和5年9月	第23回企画展示「新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンター」 (協力:同センター) (令和4年度から継続)
令和5年1月～	東大生の本棚(令和4年度から継続、令和5年7月24日および令和6年2月21日に展示替え)
令和5年2月1日～	留学生図書の展示 (協力:グローバル教育センター柏支部) (令和4年度から継続、令和5年4月14日および11月7日に展示替え)

令和5年9月16日～ 令和6年1月17日*	WINGS-PES 2nd Book Exhibition “The OCEAN” (協力：プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム (WINGS-PES)) (*1月17日以降は2階展示書架で縮小開催)
令和5年10月26日～ 12月15日	想像×科学×倫理ワークショップ「東大柏の葉 100人論文」 (新領域創成科学研究科の学生実行委員による企画、柏図書館協力)
令和6年1月25日～	科学論文の玉手箱 —柏図書館自動書庫から—



イベント等

期間	内容
令和5年 6月21日(水)	第29回サイエンスカフェ 「新領域発学生サークル13年のキセキ ～科学と社会をつなぐ活動による地域課題への挑戦～」 羽村 太雅(手作り科学館 Exedra(エクセドラ)館長/新領域創成科学研究科 OB) ※会場開催およびライブ配信
11月30日(木)	英語落語鑑賞会 (主催：三井ボランティアネットワーク事業団、共催：グローバル教育センター柏支部、柏図書館)
12月5日(火)	第30回サイエンスカフェ 「ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡の最新観測で探る宇宙の果て」 大内 正己(宇宙線研究所教授) ※会場開催およびライブ配信
令和6年 1月15日(月)	第25回わくわくミニコンサート (柏図書館、柏図書館友の会共催)

Kashiwa Library events 2023

第29回 柏図書館サイエンスカフェ
Kashiwa Library Science Cafe #29

新領域発学生サークル 13年のキセキ

～科学と社会をつなぐ活動による地域課題への挑戦～



Exedra
今年度のサイエンスカフェは、
柏市内で活躍する科学者を講師
としてサイエンスカフェを開催。
山村大雅さんをお迎えします。

山村大雅 さん
ゲスト 羽村 太雅 さん
ゲスト 羽村太雅 Exedra エグゼドრა 代表

カフエホスト 大品 義人
東京大学大学院准教授

科学と社会を結び「科学コミュニ
ケーション」——その意義はどこ
にあるか、活動を通じて科学と社会
がどのようにつながるのか。

先でこの活動は社会の様々な課題の解決に、どう貢献できるのか、
学生サークルがボランティア活動から、さらに地域貢献までさまざまな
道を模索してきた羽村太雅さんのお話をぜひ一緒に考えてみましょう。

※参加費無料です。お申し込みは、お名前も必要です。
※会場での参加には、お名前も必要です。
※当日の開催を要約した動画を配信いたします。
※お申し込み先着順です。詳細はホームページをご覧ください。
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa-event/20230621/>

6/21(水) 17:00～18:00
※ 開場 16:45 ※ 定員 20名(先着順)

会場：柏図書館1階コミュニティサロン

主催：東京大学柏図書館
協賛：東京大学柏図書館友の会

お問い合わせ
TEL: 04-7136-4224 E-mail: kashiwa@kashiwa-u.ac.jp
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa/>

Rakugo in English 2023

ADMISSION 無料! 入場自由!

英語落語

1. What's the best? 最高の方法
Sato
2. The "Accommodate the Five's Spirit" 五徳心徳
Waka
3. Yae-Odori 宵夜囃子
Waka
4. Sumaleki 和歌落語
Sato
5. Rakugo Experience 落語体験
Daisuke
6. Furoshiki 風呂敷
Mitsuo
7. Mariko Tamaokane 湯島おたまかね
Sato
8. Tama Noodle 湯島そば
Daisuke

November 30 (Thu) 17:00-19:00
Media Hall, Kashiwa Library, UTokyo

主催：山形大学国際交流センター学芸部 山形大学国際交流センター
東京大学柏キャンパス国際教育センター 東京大学柏キャンパス国際教育センター (Kashiwa Branch) (KUIE)
東京大学柏図書館 (Kashiwa Library)

※参加費無料です。
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa-event/20231130/>

Kashiwa Library events 2023

第30回 柏図書館サイエンスカフェ
Kashiwa Library Science Cafe #30

ジェイムズ・ウェブ宇宙望遠鏡の最新観測で探る宇宙の果て



Uchiyama Masahiro
ゲスト 大内 正己 先生
東京大学宇宙線研究所 教授

カフエホスト 大品 義人 担当
東京大学大学院准教授

宇宙の果てはどうなっているのでしょうか?
今年度のサイエンスカフェでは、朝4年/12月の宇宙線観測の大内正己先生をお招き
して、最新の宇宙を探るための観測を振り返りつつ、先ごろ観測を終めたジェイ
ムズ・ウェブ宇宙望遠鏡の高感度観測で発見された超遠方の宇宙の果てについて
お話を伺います。そして、このような観測から読み取られる宇宙130億年の歴史に
ついて最新の観測結果を交えながら紹介いたします。

※参加費無料です。
※会場での参加には、お名前も必要です。
※当日の開催を要約した動画を配信いたします。
※お申し込み先着順です。詳細はホームページをご覧ください。
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa-event/20231205/>

12/5 (火) 17:00～18:00
※ 開場 16:45

会場：柏図書館1階コンファレンスルーム
定員：20名(先着順、家来あり) ※ライブ配信あり

主催：東京大学柏図書館
協賛：東京大学柏図書館友の会

お問い合わせ
TEL: 04-7136-4224 E-mail: kashiwa@kashiwa-u.ac.jp
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa/>

第25回 わくわくミニコンサート

2024年 1月15日(月)
17:15開演/17:00開場/19:30終了予定
東京大学柏キャンパス 柏図書館メディアホール

お問い合わせの心、どうぞよろしくお願いいたします。
(予約不要・入場無料・入場自由)

1. 開演 挨拶
1.5. 川口 淳一 (クラシック音楽家)
2. 山崎 真由美 (クラシック)
3. 大内 正己 (宇宙線観測)
4. 大内 正己 (宇宙線観測)
5. 大内 正己 (宇宙線観測)
6. 大内 正己 (宇宙線観測)
7. 大内 正己 (宇宙線観測)
8. 大内 正己 (宇宙線観測)
9. 大内 正己 (宇宙線観測)
10. 大内 正己 (宇宙線観測)
11. 大内 正己 (宇宙線観測)
12. 大内 正己 (宇宙線観測)
13. 大内 正己 (宇宙線観測)
14. 大内 正己 (宇宙線観測)
15. 大内 正己 (宇宙線観測)
16. 大内 正己 (宇宙線観測)
17. 大内 正己 (宇宙線観測)
18. 大内 正己 (宇宙線観測)
19. 大内 正己 (宇宙線観測)
20. 大内 正己 (宇宙線観測)

主催：東京大学柏図書館 TEL: 04-7136-5211
協賛：東京大学柏図書館友の会
URL: <https://www.kashiwa-u.ac.jp/library/kashiwa/>

4. 資料の収集

4.1 学習用図書整備

平成 20 年度から恒常的に措置されている学習基盤経費により、令和 5 年度は総合・駒場・柏図書館で合計冊（総合：5,112 冊、駒場：3,794 冊、柏：1,264 冊）の学習用図書を購入した。図書の選定に際しては、教員からの推薦、図書館職員による選定のほか、学生自身の観点を生かすため、ジュニア・スタッフによる選書を実施している。また、留学生向けの資料購入も別途行っており、総合図書館では 23 冊、柏図書館では 32 冊の図書を購入した。このほか、駒場図書館では平成 22 年度から継続して東大駒場友の会から学生向けの図書の寄贈を受けており、今年度は 344 冊が寄贈された。

また、和書の電子書籍については、シラバス掲載タイトルの購入など、積極的に整備を進め、6,993 タイトルが利用可能となっている。

4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用

経費節減と事務の効率化を図ることを目的として、図書資料を全学的に共同購入するシステムを平成 16 年度から運用している。第 1 ステージ（図書館・室を通して購入する図書資料）と第 2 ステージ（教員等が各部局の会計担当を通して直接購入する図書資料）を合わせた令和 5 年度の取扱総額は約 2 億 2,090 万円であり、書店への支払いの集中化・一元化により約 1,180 万円の図書購入費を節約することができた。

4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備

平成 18 年度に学内施策として合意された「全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備」の制度は、令和 3 年度から第 4 期に入った（令和 7 年度まで）。

この制度に基づき、令和 5 年度は国内雑誌・外国雑誌（冊子）タイトル、電子ジャーナルタイトル、データベース点を契約し、学習・教育研究活動に必要な学術情報を安定的に供給した。これらの契約にかかる事務処理は総合図書館が一括して執り行い、学内の契約・支払い業務の効率化も同時に図っている。

4.4 大型コレクション

全学共通経費の大型コレクションの収集対象として、以下の資料を選定した。

- (1) Socialism on Film: The Cold War and International Propaganda
（英国映画協会（BFI）所蔵 社会主義映像コレクション）
- (2) Web 版史料纂集 第 2 期古記録編 室町・戦国①～③
- (3) The Making of the Modern World, Part IV: 1800-1890 (MOMW IV)
（人文社会科学系学術図書データベース Part 4: 1800-1890 年）
- (4) East India Company: India Office Records from the British Library 1599-1947
（イギリス東インド会社文書）Module V: IOR E: Correspondence: Domestic Life, Governance and Territorial Expansion（通信：国内の生活、政府、領地拡大）

5. 資料の管理

5.1 目録データの遡及入力事業

附属図書館では、オンライン蔵書検索システム(OPAC)が導入される以前の紙の目録カードで整理されていた全学の図書について、遡及的に目録データを入力することによって、オンラインで検索できるようにする事業を10年計画で進めている。

平成27年度から開始した第3期全学遡及入力計画では、令和元年度までの前半5年間は、国文学研究資料館が中心となって実施する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に伴う「新日本古典籍総合データベース」²²の構築や東京大学新図書館計画を踏まえて総合図書館所蔵資料を優先して行った。令和5年度は、令和元年度に行った第3期全学遡及入力計画の後半5年間への参加希望調査に基づき、法学政治学研究科、理学系研究科、農学生命科学研究科、総合文化研究科、東洋文化研究所所蔵の和古書・漢籍・和書・洋書等の入力を実施した。合計で当初約30,400冊の目録作成を目標とし、約27,600冊(うち総合図書館は約12,600冊)のデータ入力を達成した。

5.2 自動書庫

(1) 人文社会科学系学術雑誌の集中化(総合図書館)

令和5年度は、令和3年度に実施した初期入庫移管対象調査に基づいて決定したタイトルを対象に、部局が所蔵する人文社会科学系製本雑誌の移管を実施した。法学部研究室図書室、人文社会系研究科・文学部図書室、農学生命科学図書館、経済学図書館、教育学研究科・教育学部図書室、情報学環・学際情報学府図書室、東洋文化研究所図書室、社会科学研究所図書室の8図書館・室から、1,252タイトル、16,283冊を移管し、自動書庫に収納した。

(2) 自然科学系学術雑誌の集中化(柏図書館)

令和5年度は、総合図書館、医学図書館、工学・情報理工学図書館(6専攻)、理学図書館、農学生命科学図書館、薬学図書館、数理科学研究所図書室、生産技術研究所図書室、物性研究所図書室、大気海洋研究所図書室の15図書館・室から、自然科学系学術雑誌のバックナンバー8,228冊を移管し自動書庫に収納した。現在、自動書庫には約40万冊が収納されており、PDF閲覧サービスを通じて全学の利用に供されている。

5.3 図書資産の実査

(1) 総合図書館

総合図書館の図書資産実査は、10年で全資料を一巡する計画で順次実施している。令和5年度は第2期計画の9年目にあたり、保存書庫内に配架されている洋図書(分類M~YB、097(ヴェーラ文庫等)、BG~BYB(大型本))と、令和4年度実査時未確認資料14冊を実査の対象とした。作業の結果、実査対象57,178冊のうち不明資料は8冊であった。また、令和4年度の不

²²<https://kokusho.nijl.ac.jp/>

資料 14 冊については 9 冊の所在を確認できたものの残る 5 冊については依然不明であったため、除籍手続きをとることとした。

(2) 駒場図書館

令和 5 年度は、保存書庫資料計 24,941 冊と不明図書 123 冊を対象として実施した。その結果、63 冊が不明であったため、令和 5 年度に再調査を行うこととした。

また、以前より不明であった資料 89 冊について現物調査を行った結果、59 冊は依然として不明であったため、調査不十分、消耗品および過去に除却済の計 10 冊を除いた 49 冊を亡失資料として除籍手続きを行った。

(3) 柏図書館

令和 5 年度は、分類記号が 000 から 299 までの図書、O'Reilly 社刊行コンピュータ関連書籍、留学生用図書、文庫・新書、参考図書の開架図書 18,239 冊を対象に、12 月から 1 月にかけて実査を実施した。その結果 7 冊が不明であったため、令和 6 年度に再調査を行うこととした。また、令和 4 年度の不明資料 3 冊について併せて再調査を行った結果、すべて確認することができなかったため、除籍手続きを行った。

5.4 アジア研究図書館の整備

令和 5 年度は、開架書架の狭隘化対策のため、教員により選定された東アジア、南アジア、西アジア各資料合計 6,995 冊を移動し、自動書庫への入庫作業を行った。この結果、新たな開架資料の配架のため、開架全体に約 30%のゆとりを持たせることができた。

令和 5 年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が 5,460 冊、購入分が 567 冊、寄贈分が 2,808 冊(部局移管のうち未登録資料を含む)で合計 8,835 冊であった。これにより令和 6 年 3 月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は 65,620 冊となった。さらに令和 6 年度に向けた移管希望調査を行った。

6. 業務管理

6.1 職員研修

附属図書館研修プロジェクトでは、業務に必要な知識を習得し、効率化・省力化を図るためのスキルを身に付けた人材を効果的に育成していくため、毎年、業務のニーズにあった目的別研修を企画している。

令和5年度は、大学図書館を取り巻く状況を踏まえ、下記の内容で研修プログラムを実施した。

期間	内容	参加者数
令和5年 9月21日(木)	みんなで考えよう!大学図書館とオープンサイエンス (総合・駒場・柏図書館へ集合の上、オンライン開催)	24名
11月20日(月)	データベースからみる図書館業務システムのできること とできないこと (図書館業務システムリプレイスシリーズ 第1回) (オンライン開催)	23名
令和6年 1月18日(木)	図書館システムへの要望をとおすには (図書館業務システムリプレイスシリーズ 第2回) (オンライン開催)	27名

この他、国立大学図書館協会や国立情報学研究所などの関係機関の主催事業をはじめとする学内外の研修情報について、附属図書館職員への周知を積極的に行った。

また、東京大学附属図書館、京都大学附属図書館および国立情報学研究所の共催により、2023年度大学図書館職員短期研修を、令和5年10月17日(火)～20日(金)に開催した。令和3～4年度はオンライン開催であったが、今回は総合図書館を会場とし、4年ぶりの対面開催となった。全国の国公立大学等から若手・中堅の図書館職員計39名が参加した。

6.2 学生協働

(1)ジュニア・スタッフ

東京大学では、大学の様々な活動に学生が積極的に参画することを奨励するために、意欲ある学部学生を「ジュニア・スタッフ」に採用し奨励金を支給する制度を実施しており、附属図書館でも活用している。

総合図書館では、令和5年度は7月から12月まで活動を行った。学生から7名を採用し、返却図書の配架、書架整理、新着図書の装備、学生用図書の選書等の活動を行った。選書により購入した図書は、「東大生の本棚 2023 Autumn」「東大生の本棚 2024 Spring」として3階ホールに展示した。展示にあたっては、自分が選書した中で特におすすめする図書のPOPを各自作成したほか、展示のための装備や展示作業も行った。この展示に合わせて総合図書館ウェブサイト上にブックログ(仮想本棚サービス)²³を設置し、ブックログ上でも同内容の展示を実施した。

²³ <https://booklog.jp/users/utokyogenlib/users/utokyogenlib>

駒場図書館ではジュニア・スタッフ 20 名を採用し、学生用図書の見直し、蔵書点検と狭隘化解消のための資料移動作業、マイクロ資料劣化調査、新入生への配布資料準備および入学諸手続補助等の活動を行った。

柏図書館では、令和 5 年度は実施しなかった。

(2) オンキャンパスジョブ

令和 5 年度は以下の 2 事業を実施することができた。

- ① 障害のある利用者(本学構成員)のための資料電子化サービス(3.2 参照)
- ② アジア研究図書館における蔵書整理

アジア研究図書館では、収集資料の中にアジアの諸言語で記述されているものが多く含まれるため、これらの整理のために、各言語や専門分野の知識を必要とする。そこで、専門知識を有する大学院学生の協力を得るべく、オンキャンパスジョブ制度を活用した。学生 3 名(すべて修士課程)の活動により、寄贈されたアラビア語、ペルシャ語、トルコ語資料の整理をすすめた。当初予定していた作業の大半が完了し、このうち柳橋博之人文社会系研究科名誉教授寄贈資料については、『アジア研究図書館柳橋博之氏旧蔵資料目録』を刊行することができた。²⁴

(3) 学生企画による展示(柏図書館)

「プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム(WINGS-PES)」による選書展を、柏キャンパス一般公開(10月25~26日)の時期に合わせて、柏図書館 2 階展示スペースで行った。開催にあたり、WINGS-PES の学生と連携し、展示物の手配や展示内容の検討を行った。

新領域創成科学研究科の学生実行委員によるポスター展示「想像×科学×倫理ワークショップ「東大柏の葉 100 人論文」」を、柏キャンパス一般公開の時期に合わせて、柏図書館 1 階展示スペースで行った(3.6(3)参照)。開催にあたり、実行委員の学生と連携し、展示内容の検討を行った。

6.3 社会連携・地域貢献

(1) 所蔵資料の出陳(総合図書館・駒場図書館)

附属図書館では、全国の美術館・博物館等が企画する展覧会への出陳依頼があった際に、所蔵資料の貸出(出陳)を行っている。令和 5 年度は、総合図書館では 8 機関へ 22 点の資料を貸し出した。

(2) お茶の水女子大学附属図書館との連携(総合図書館・駒場図書館)

令和 5 年 1 月 6 日(金)に、本学と国立大学法人お茶の水女子大学が、教育研究を通じた人材育成および地域社会への貢献に係る連携および協力に関して包括協定を締結したことに基づき、令和 5 年度からお茶の水女子大学附属図書館と総合図書館・駒場図書館それぞれの間で相互の利用を開始した。

本郷キャンパスにおける協定授業は A セメスター 2 科目、総合図書館での登録者は 26 名だった。教養学部で対象となった授業は、S セメスター 1 科目、A セメスター集中講義 2 科目、駒場図書

²⁴ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/publications>

館での登録者は 2 名だった。協定は令和 6 年度も継続するため、お茶の水女子大学附属図書館との連携を深めながら、引き続き相互の学生へのサービス提供に努めたい。

(3) 建物・施設見学の対応(総合図書館)

総合図書館には、毎年、国内・国外から建物・施設の見学希望者が多数訪れる。ここ数年は改修工事および新型コロナウイルス感染拡大の影響により見学を謝絶していたが、令和 5 年度から本格的に再開した。個人見学 2,882 人、研修・関係団体・業者などの業務見学 47 組 605 人、総計 3,487 人であった。なお、一般学外者の見学は、館内の学習環境維持のため、試験期間中の 7 月・1 月は休止し、8 月・3 月のみ Web 予約により受け入れることとした。

(4) 柏図書館友の会(柏図書館)

東京大学柏図書館友の会は、柏図書館の活動および事業への支援や、会員相互および柏図書館職員との交流の促進を図ることを目的として、平成 20 年度に発足した組織である。

令和 5 年度は第 15 回総会を 5 月 30 日(火)に 4 年ぶりに集合開催し、会長その他の役員や事業計画が承認された。また、理事会を令和 6 年 3 月 11 日(月)に開催し、翌年度の活動計画や会の活動について、議論を行った。令和 6 年 3 月末の会員数は一般会員 165 名(うち令和 5 年度新規一般会員 44 名)である。

友の会の主催イベントとして、5 月 30 日(火)の総会終了後、引き続き柏図書館メディアホールにて第 5 回柏図書館友の会上映会を行った。邦画『梅切らぬバカ』を上映し、27 名が参加した。友の会と柏図書館が共催する「わくわくミニコンサート」については感染防止対策を徹底の上で令和 6 年 1 月 15 日(月)に開催し、18 組出演・153 名参加の盛況であった。

(5) 地域の大学図書館等との連携(柏図書館)

柏図書館は、千葉県大学図書館協議会に平成 28 年度から加盟しているが、令和 5 年度は当番館としてその運営に当たった。総会を 8 月 28 日(月)から 9 月 7 日(木)に文書会議で開催したことに加え、9 月 14 日(木)に当館を会場として会員館向けに見学懇談会を開催した。参加は 16 館 25 名で、活発な意見・情報交換を行った。

柏市立図書館の主導による市内大学図書館意見交換会については、令和 5 年度は開催がなかった。

(6) 中学生職場体験の受入(柏図書館)

例年、柏市内の市立中学校からの依頼に基づき、中学生職場体験の受入を実施していたが、令和 5 年度については、中学校側からの依頼がなかったため実施しなかった。

(7) 関東近県の自然科学系博物館の展示図録収集(柏図書館)

科学に関する知の交流と地域貢献の一助として、関東近県の自然科学系博物館の展示図録収集を開始した。令和 5 年度は、合計 6 館から購入 18 冊(3 館)、寄贈 38 冊(3 館)を受入した。

(8) 大学生のインターンシップの受入(総合図書館等)

総合図書館では、例年、図書館の関係分野を専攻する大学生・院生のインターンシップ(実習)を実施している。令和5年度は慶應義塾大学の学生1名の参加があり、2週間にわたり、総合図書館での図書館業務実習を中心に駒場図書館、柏図書館、部局図書館・室での見学等を経験した。

6.4 教員著作物可視化事業との連携

総合図書館では、令和2年11月から、学術振興企画課の協力を得て、「UTokyo BiblioPlaza」掲載図書を中心に東京大学の教員著作を展示する「UTokyo Faculty Works」コーナーを3階ホールに設置している。このコーナーでは展示内容を定期的に更新しながら常時700冊程度を配置しているが、その多くは表紙を見せ視覚にも訴えるよう心がけている。令和5年度には新たに受け入れた教員著作を随時追加したほか、東京大学而立賞²⁵を受賞した図書を主とした若手研究者の著作のミニ展示も行った。

駒場図書館では、令和元年度以降1階エントランス付近にUTokyo BiblioPlazaコーナーを設置し、年1回入れ替えを行っている。令和5年度は令和6年2月に入れ替えを行い、122冊を配架した。

6.5 学内他部署との連携

(1) 総合図書館

総合図書館では、平成27年度から、障害者集中雇用プロジェクトチーム(施設部施設企画課が主管。以下、「プロジェクトチーム」という。)の建物清掃班の協力の下、定期的な館内清掃等の作業を行っている。令和5年度は毎月の休館日に本館の閲覧机および館内のパソコン約70台、別館ライブラリープラザの机・自動ドア等従来通りの清掃を行い、更に玄関自動ドアやプロジェクトボックスの壁等ガラス面の清掃箇所を拡大して行った。

一方、平成30年度に図書館内に設けたプロジェクトチーム分室では、業務支援班のコーディネーターとスタッフによる図書館業務専門のチームが常駐し、日常的に資料清掃や書架整理を実施している。令和5年度は、開架書架の整理と書庫収蔵図書の清掃を毎日の業務として行いつつ、図書資産実査の補助作業も行った。今後も対象業務の多様化を図り、プロジェクトチームとの協働を深めていきたい。

また、昨年度から引き続き、相談支援開発センター²⁶の活動に協力している。「ぴあサポゆるっとART WORKSHOP」(2回)の作品公開場所としてオープンエリアを提供したほか、4年ぶりに開催された「ぴあサポ本祭り」²⁷にあたって、図書回収ボックスの設置、ライブラリープラザの会場提供で協力した。このほか学生相談所のthe UT ART project「現代日本画家によるインスタレーション Live Painting」(令和5年12月6日~8日、完成品展示 令和6年3月14日~18日)の会場としてオープンエリアが使用された。²⁸

²⁵ https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03_kankojosei.html

²⁶ <https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/>

²⁷ <https://ut-psr.net/2023/12/15/bookfestival/>

²⁸ <https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/information/1271/>

(2) 駒場図書館

駒場図書館では、平成 27 年度から障害者集中雇用プロジェクトチーム建物清掃班（駒場分室）が定期的な保存書庫の資料・書架の清掃に加え、不定期に館内の PC、閲覧机や開架書架の清掃を行っている。週 1 回、4～6 名のスタッフによる丁寧な作業によって、保存書庫や館内の環境は格段に改善された。このほか教養学部等事務部環境美化チームにも随時、書架の清掃を依頼し、資料保存環境の向上につながっている。両チームの貢献度は極めて高く、今後も連携を継続していきたい。

(3) 柏図書館

柏図書館では、平成 25 年度から柏地区共通事務センター環境整備チームに書架整理や送付物ラベル貼付、送付物封入作業など様々な図書館業務を依頼している。令和 5 年度も引き続き、図書資産実査の補助作業、廃棄資料の処理作業、返却図書の書架への配架、清掃作業などを行った。環境整備チームによる業務は、柏図書館にとって強力な業務支援となっており、今後も継続して作業内容を相談しながら業務を依頼し、連携を深めたい。

また、グローバル教育センター²⁹柏支部と連携した展示やイベントを行った（3.6(3)参照）。

6.6 規則改正等

総合図書館では、「東京大学総合図書館寄贈資料取扱要領」を制定し令和 5 年 10 月 5 日より施行した。また、令和 6 年 1 月 31 日付（令和 6 年 4 月 1 日施行）で「総合図書館利用規則」の一部改正を行った。平日の開館時間を午前 9 時に変更するものである。併せて、参照する東京大学規則の変更に伴う文言の修正を行った。また、セミナールームの利用可能時間を閉館 30 分前までに拡大する、「総合図書館本館貸出施設利用要領」の一部改正を令和 6 年 3 月 12 日付（令和 6 年 4 月 1 日施行）で行った。

²⁹ <https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

7. 附属図書館会議

開催日	会議名称
令和5年	
4月20日(木)	第459回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月11日(火)	令和5年度第1回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
7月20日(木)	第460回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月21日(金)	令和5年度第1回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
7月26日(水)	第58回駒場図書館運営委員会(オンライン)
9月6日(水)	(臨時)東京大学図書行政商議会(メール会議)
11月17日(金)	第461回東京大学図書行政商議会(オンライン)
12月14日(木)	第59回駒場図書館運営委員会(オンライン)
令和6年	
1月9日(火)	令和5年度第2回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
1月24日(水)	令和5年度第1回総合図書館運営委員会 (於 総合図書館 大会議室)
3月5日(火)	第462回東京大学図書行政商議会(オンライン)
3月5日(火)	令和5年度第2回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
3月13日(水)	第60回駒場図書館運営委員会(オンライン)

8 全図書館・室統計

8.1 職員数、蔵書数、利用件数

令和5(2023)年度附属図書館統計表

2024年3月31日現在

	職員数		蔵書数						資料費 総額 (千円)	受入資料数								館外貸出 (冊)	相互利用 (文献複写)	
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物				図書				逐次刊行物					受付 (件)	依頼 (件)
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)		和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	(内購入)			
大学院法学政治学研究科・法学部研究室図書室	12	5	307,887	553,557	861,444	2,271	3,920	6,191	105,220	3,595	4,484	8,079	4,273	578	704	1,282	827	-	252	220
近代日本法政史料センター (明治新聞雑誌文庫)	3	0	57,805	823	58,628	8,166	39	8,205	71	24	1	25	1	175	0	175	0	-	50	1
医学図書館	10	5	115,032	146,979	262,011	1,743	1,715	3,458	21,736	1,457	88	1,545	1,399	422	22	444	144	13,352	2,788	243
工学・情報理工学図書館	21	7	174,018	232,767	406,785	4,028	3,457	7,485	20,034	2,225	1,686	3,911	1,326	706	114	820	326	32,946	276	51
大学院人文社会系研究科・文学部図書室	7	15	569,911	575,741	1,145,652	9,630	3,749	13,379	54,163	5,314	4,485	9,799	3,645	540	538	1,078	704	9,944	302	290
理学図書館	5	7	43,024	181,152	224,176	1,486	4,449	5,935	13,253	360	781	1,141	302	201	140	341	78	9,131	92	23
農学生命科学図書館	10	4	273,525	194,583	468,108	8,019	5,389	13,408	32,866	4,187	6,225	10,412	858	908	419	1,327	562	11,240	912	57
経済学図書館	8	13	523,769	331,363	855,132	11,558	4,655	16,213	33,327	2,790	895	3,685	2,116	455	198	653	280	10,839	178	69
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書室	21	14	641,901	511,937	1,153,838	2,430	3,643	6,073	34,678	6,996	2,427	9,423	4,635	778	567	1,345	813	152,750	607	391
自然科学図書室	2	0	12,257	20,831	33,088	138	413	551	313	395	15	410	73	18	6	24	18	2,756	-	18
グローバル地域研究機構 アメリカ太平洋地域研究センター図書室	1	2	14,970	62,335	77,305	126	1,090	1,216	1,900	98	176	274	117	39	50	89	43	1,118	13	0
大学院教育学研究科・教育学部図書室	4	4	104,287	66,216	170,503	2,972	989	3,961	7,909	921	226	1,147	611	360	69	429	198	10,774	359	112
薬学図書館	2	2	14,962	37,142	52,104	414	426	840	1,794	166	30	196	141	73	0	73	10	2,246	80	13
大学院数理学研究科図書室	2	3	16,120	146,284	162,404	138	1,675	1,813	46,542	144	1,550	1,694	1,593	21	408	429	282	2,990	69	1
大学院情報学環・学際情報学府図書室	2	3	71,039	55,015	126,054	1,359	1,342	2,701	2,463	464	138	602	490	143	35	178	93	3,128	240	27
社会情報研究資料センター	0		12,233	2,618	14,851	0	0	0	1,427	93	12	105	105	0	0	0	0	-	80	0
医科学研究所図書室	2	0	292	137	429	32	13	45	183	0	0	0	0	9	4	13	4	163	100	66
地震研究所図書室	2	1	23,176	37,362	60,538	1,231	1,308	2,539	1,363	111	43	154	51	85	17	102	26	558	18	0
東洋文化研究所図書室	5	5	510,229	197,270	707,499	2,540	6,548	9,088	11,067	4,278	1,821	6,099	1,106	307	592	899	444	199	63	38
社会科学研究所図書室	7	0	215,733	142,043	357,776	5,312	2,219	7,531	15,880	981	591	1,572	794	571	153	724	279	7,803	235	51
生産技術研究所図書室	2	0	59,095	92,599	151,694	1,070	1,501	2,571	1,177	124	7	131	115	103	6	109	7	668	32	59
史料編纂所図書室	15	0	542,536	16,742	559,278	3,141	291	3,432	7,066	2,152	114	2,266	495	1,495	31	1,526	102	-	136	21
宇宙線研究所図書室	0	1	1,008	23,503	24,511	21	214	235	517	5	6	11	11	11	3	14	12	42	4	5
物性研究所図書室	2	1	8,063	60,058	68,121	99	635	734	9,380	174	156	330	272	34	1	35	31	2,835	20	0
大気海洋研究所図書室	3	1	23,803	36,736	60,539	1,672	1,200	2,872	4,501	162	43	205	112	343	204	547	40	459	33	16
先端科学技術研究センター図書室	2	1	18,518	30,563	49,081	81	417	498	1,656	217	35	252	195	18	1	19	11	1,311	2	8
総合研究博物館図書室	1	1	10,045	2,258	12,303	738	354	1,092	0	333	3	336	0	184	37	221	0	127	1	10
部局図書館(室) 計	151	95	4,365,238	3,758,614	8,123,852	70,415	51,651	122,066	430,486	37,766	26,038	63,804	24,836	8,577	4,319	12,896	5,334	277,379	6,942	1,790
総合図書館	39	17	916,057	507,602	1,423,659	12,937	11,485	24,422	2,064,299	16,298	16,528	32,826	6,552	1,064	183	1,247	184	172,691	2,802	20
柏図書館	5	2	146,999	344,812	491,811	8,467	16,862	25,329	12,003	1,360	397	1,757	1,264	25	6	31	27	16,691	516	27
総計	195	114	5,428,294	4,611,028	10,039,322	91,819	79,998	171,817	2,506,788	55,424	42,963	98,387	32,652	9,666	4,508	14,174	5,545	466,761	10,260	1,837

(公社)日本図書館協会「大学・短期大学・高等専門学校図書館調査」より

(ただし職員数は附属図書館職員名簿(2024年4月1日現在)より/常勤には職域(時間)限定職員を含む)

8.2 経年変化

(1) 蔵書数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2019(令和元)年度	9,808,256	1,308,515	687,934	453,869
2020(令和2)年度	9,854,341	1,330,955	693,124	460,477
2021(令和3)年度	9,914,461	1,355,027	699,977	472,212
2022(令和4)年度	9,987,896	1,392,594	707,358	481,997
2023(令和5)年度	10,036,726	1,423,659	712,811	491,811

(冊)

(2) 所蔵雑誌種類数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2019(令和元)年度	169,965	21,536	5,757	24,386
2020(令和2)年度	169,650	21,473	5,768	24,639
2021(令和3)年度	170,225	21,890	5,920	24,847
2022(令和4)年度	170,008	23,131	6,009	24,925
2023(令和5)年度	171,817	24,422	6,073	25,329

(種類)

(3) 資料費総額

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2019(令和元)年度	1,968,724	62,094	34,291	12,070
2020(令和2)年度	2,030,727	62,302	27,864	11,483
2021(令和3)年度	2,104,759	65,896	28,187	12,900
2022(令和4)年度	2,145,437	60,625	26,335	11,796
2023(令和5)年度	2,506,788	68,913	34,678	12,003

(千円)

(4) 入館者数(延人数)

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2019(令和元)年度	1,900,623	550,874	706,078	33,694
2020(令和2)年度	373,459	166,088	57,123	13,399
2021(令和3)年度	806,360	377,648	207,018	16,895
2022(令和4)年度	1,250,716	479,412	468,673	16,966
2023(令和5)年度	1,402,734	509,047	497,774	21,047

(人)

(5) 館外貸出冊数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2019(令和元)年度	528,522	152,975	178,548	25,715
2020(令和2)年度	302,491	116,312	87,424	14,200
2021(令和3)年度	456,017	172,033	146,863	19,077
2022(令和4)年度	480,969	177,231	162,889	16,868
2023(令和5)年度	466,761	172,691	152,750	16,691

(冊)

(6) キャンパス間配送実績

	総件数	取寄せ件数	返却のみ件数
2019(令和元)年度	112,640	48,429	15,782
2020(令和2)年度	62,363	26,505	9,353
2021(令和3)年度	119,466	49,265	20,936
2022(令和4)年度	138,839	55,845	82,994
2023(令和5)年度	142,995	55,921	87,074

(冊)

(7) ウェブサービス等アクセス数

	東大OPAC (検索回数)	GACoS	Literacy
2019(令和元)年度	5,767,232	756,726	—
2020(令和2)年度	4,255,151	957,590	—
2021(令和3)年度	4,304,685	693,607	230,300
2022(令和4)年度	4,888,181	—	332,130
2023(令和5)年度	6,593,137	—	268,171

(回)

※2021年8月に学術情報にアクセスするためのポータルサイトGACoSは、Literacyへリニューアル

(8) 電子ジャーナルダウンロード数

	CUP	Science	OUP	Springer Nature	Wiley- Blackwell	Elsevier
2019(令和元)年度	27,244	149,344	122,454	1,072,442	589,101	1,329,439
2020(令和2)年度	22,641	223,009	104,109	1,026,052	556,613	1,299,899
2021(令和3)年度	26,685	140,443	138,422	1,192,758	640,983	1,508,520
2022(令和4)年度	30,974	153,567	152,586	1,218,584	663,449	1,563,053
2023(令和5)年度	30,612	164,244	155,472	1,295,258	779,412	1,729,404

※2018年はCOUNTER 4準拠、2019～2022年はCOUNTER5準拠の数値
(2019年の数値はCOUNTER5で集計し直したもの)

(9) 電子ブックアクセス数

	Maruzen eBook Library	Springer	Elsevier	OUP	CUP*1	Wiley*2	ProQuest	EBSCO
2020(令和2)年	103,314	67,879	49,712	12,176	19,924	40,440	7,783	3,408
2021(令和3)年	84,482	77,543	38,961	16,069	65,614	8,673	9,126	8,727
2022(令和4)年	80,993	87,966	40,890	31,852	52,633	9,611	9,427	6,646
2023(令和5)年度	50,490	95,569	39,709	39,511	52,167	14,182	7,777	4,854

※原則としてCOUNTER5準拠の数値／プラットフォームにより統計基準が異なる場合がある

※*1 CUPは2021年3-9月にEBAを実施した

※*2 Wileyは2021年に統計基準の見直しがあった

【参考情報】図書館関連統計情報の公開サイトについて

・附属図書館 統計表

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/statistic>

・主要情報サービス利用統計(情報システム部情報基盤課学術情報チーム)

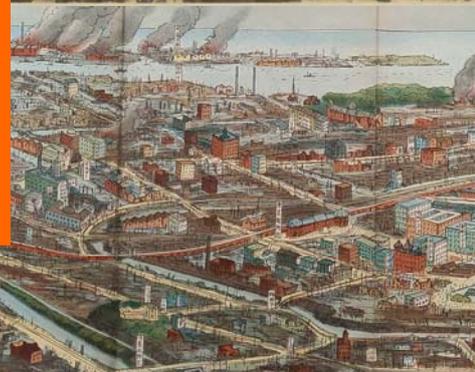
<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/stat/index.html>

9 参考資料

令和5年度東京大学附属図書館特別展示

図書館に眠る 震災の記憶

大正12（1923）年に発生した関東大震災から100年。
震災によって失われた蔵書の記録や奇跡的に救われた
資料などをおして、東京大学附属図書館にもたらさ
れた甚大な被害を、あらためて振り返ります。



2023. 8. 25 [金] ~
10. 25 [水]

■ 会場

東京大学総合図書館（本郷キャンパス）
展示スペース及びオープンエリア

■ 開室時間

平日 9:00~22:30（8月は21:00まで）
土・日・祝日 9:00~19:00（8月は17:00まで）
※9月21日、9月24日は閉室日

■ 予約不要・入場無料

詳細は附属図書館ウェブサイトを
ご覧ください



<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20230825>



仮図書館閲覧室（大正十三年より昭和三年まで使用）



大正12（1923）年9月1日に発生した大正関東地震は、「関東大震災」と呼ばれる未曾有の大災害を引き起こし、東京大学も壊滅的な被害を受けました。特に図書館は、地震によって発生した火災により全焼し、ほとんどすべての蔵書が焼失しました。

今年は、その関東大震災から100年の節目の年にあたります。本展では、震災によって失われた蔵書の記録や奇跡的に救われた資料などから、東京大学附属図書館にもたらされた甚大な被害をあらためて振り返ります。本展を通じて、地震被害への認識を新たにし、防災について改めて考える機会としていただければ幸いです。

展示資料のご紹介



東京大学の被害



全壊した図書館



当時の雑誌から見る震災



関連図書から見る震災

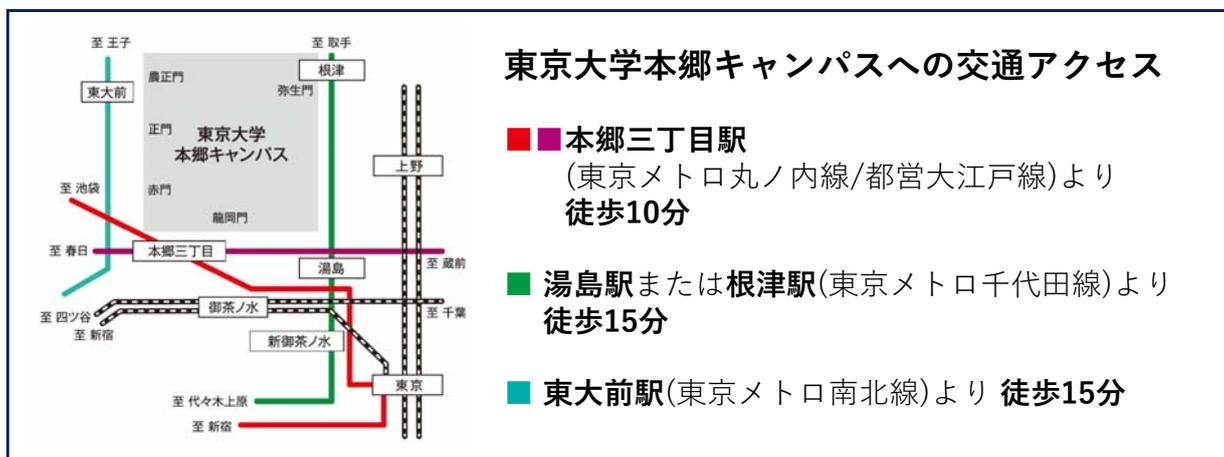


新聞や文学作品等に描かれた関東大震災

東京大学で開催する「関東大震災100年」関連イベント等の情報を発信しています



10月21日(土)は東大ホームカミングデイにあわせて、震災を免れた貴重図書を特別に展示します



アクセス
詳細ページ



【お問い合わせ先】東京大学附属図書館 情報サービス課

電子メール utl-tenji-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp / 電話 03-5841-2640

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-32

東京大学附属図書館

2024年8月7日 発行

編集・発行 東京大学附属図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-2613(総務課企画渉外チーム)

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>